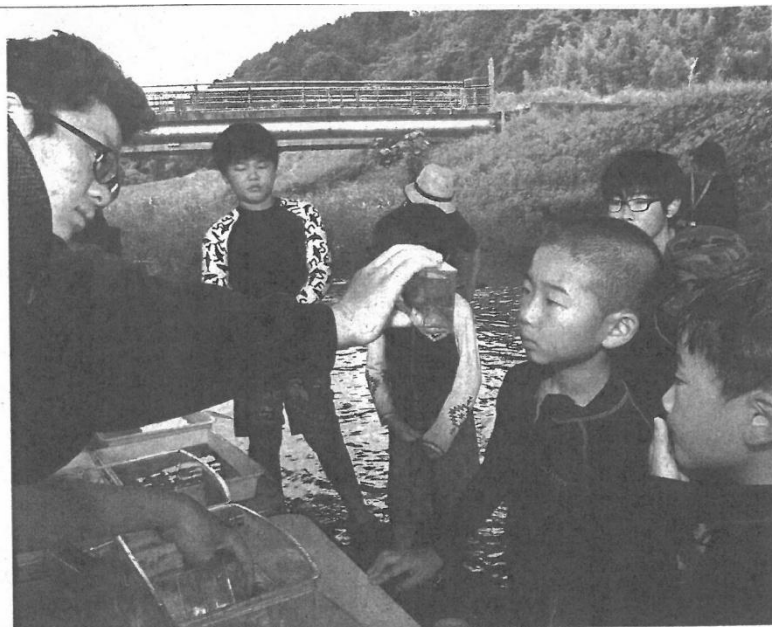




魚の説明を聞く子どもら（丹波篠山市で）

エビや魚 水中生物学ぶ

丹波篠山・真南条川 親子ら19人

「武庫川上流の生きもの観察会」が9日、丹波篠山市の武庫川上流の真南条川で開かれた。市内の親子ら19人は川に入って網で魚や虫を捕まえ、楽しみながら水中生物の生態を学んだ。

毎年、市民団体「篠山環境みらいの会」が開催。

会長は県立篠山東雲高校の教諭で、同校の自然科学部の生徒らが指導役を務めた。

子どもらは網を引きあげる度、「エビや」「魚おった」

と歓声を上げ、約1時間で18種類の水中生物を水槽に捕獲。魚では生息数が減っているとみられるアブラボテ、虫ではミズカマキリなどが見つかった。

生徒らは「アブラボテが卵を産む二枚貝が減っている」と生息環境が悪化している現状を説明するなど、各生物の特徴を解説した。昨年に参加した小学2年の男児は「魚がいてうれしかった」と目を輝かせていた。

2025年8月10日

読売新聞